

1 事業総括

入所世帯実績は98世帯で、年度目標の135世帯を下回り(18%減)、昨年度実績120世帯にも届かなかった。他方、退所理由での目標達成率は、87.1%で昨年度84.5%をわずかに上回った。

世帯構成としては、女性単身世帯は33世帯(33.7%)で、家族世帯は64世帯(65.3%)であった。家族世帯のうち47世帯が母子世帯であった。主な入所原因としては、「夫の暴力からの避難」が42世帯(42.9%)、「自立した生活困難」が19世帯(19.4%)、「親族不和」が13世帯(13.3%)であった。また、利用者のなかには、精神障害者、発達障害者、身体障害者、高齢者も含まれていた。

こうした状況における多様で広範な支援ニーズに対して、福祉事務所の支援方針及び利用者の要求を踏まえ、それぞれに相応しいアセスメント・支援に努めてきた。加えて、関係機関等(バックアップセンター専門相談、小・中学校、子ども家庭支援センター、児童相談所、保健所、警察等)との協業・連携をし、支援の質の向上を図ってきた。

なお、18歳以下の子ども数は、92人で全入所者数211人の43.6%と高い比率になっている。「子どもの育ちと学びの支援」をはじめ、子どもへの直接的な支援も行った。

[利用実績]

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所世帯数	98	7	2	11	12	8	6	10	8	6	9	7	12
退所世帯数	101	13	5	5	8	5	7	13	10	11	5	8	11
月末在籍世帯数	27.5	24	21	27	31	34	33	30	28	23	27	26	27
28年度	27.4	32	33	29	26	26	29	25	24	23	26	26	30

[退所理由]

(単位：世帯)

	自 活	転 居	居 宅 移 管	入 院 除 籍	移 管 福 祉 施 設	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	等 同 居	帰 郷 ・ 親 族	拘 留 除 籍	死 亡	そ の 他	合 計
29年度	0	0	71	2	17	5	0	0	6	0	0	0	0	101
28年度	0	0	82	0	16	9	4	0	5	0	0	0	0	116

2 主要目標に対する成果

(1) 多様な困難を抱える家族(DV被害世帯等)への利用者支援の強化と充実

利用者支援マニュアルによる支援の標準化を進め、職員の協業・連携を強化し、切れ目のないかつ均質な支援を実施した。

(2) 「子どもの育ちと学びの支援」のプログラム実施

母親と幼児対象として「読み聞かせ」事業(紙芝居、指人形も含む)を児童室等で計5回実施し、参加者総数は、13世帯27名であった。図書室においては、その一角に幼児が遊べるスペースを作るとともに、小学生・中学生用新聞が閲覧できるようにした。また、近隣のボランティアによる「学習会」(28回)実施した。

(3) 施設独自のカウンセリングにより子どもから大人までの心のケアの実施

DV関連のカウンセリングを23回(うち1回子どもが対象)実施した。また、バックアップセンターの心理相談も16回(うち4回子どもが対象)実施した。

(4) バックアップセンターの利用者支援事業の効率的活用

バックアップセンターと連携し、その支援事業を積極的に活用した。主な実績としては、緊急一時保育129世帯、緊急一時介助14世帯、法律相談3回、他言語相談3回があった。

(5) 利用者の安心・安全に十分配慮した施設運営・管理の実施。

安否確認、定期寮内巡回(毎日2回)、面会者確認、防犯カメラ等で施設内の秩序の維持・安全を確保する一方、施設運営管理上利用者の個人情報管理を徹底した。

運 営 管 理

- ・退所後の居室を迅速に整備し、当面のニーズに応える電化製品・生活用品を貸出・提供し、利用者の迅速且つ柔軟な受入体制を構築した。
- ・実施機関の支援方針に基づく支援計画の実施時、その進捗状況の確認にあたり利用者自身が主体的に計画進められるように配慮・サポートしながら支援した。
- ・小・中学校転入時の事前面接に、施設職員が必ず立会うなど学校との連携を取ってきた。さらに制服、体操着、シューズ等の貸出をして円滑な登校を図った。なお小学校への登校状況については毎朝確認した。
- ・利用者親子に季節感等を感じて楽しむ行事（ひなまつり、子どもの日、七夕、夏祭り、ハロウィン、クリスマス会、正月遊び）を開催した。
- ・防災消防訓練計画に基づき、火災や地震、風水害想定自主避難訓練を計画的に（年5回）実施した。内1回は、合築している福祉施設と共同して訓練を実施した。また、「小豆沢荘震災想定BCP」「小豆沢荘BCP防災対策マニュアル（風水害編）」の更新を進めた。
- ・災害備蓄品及び防災用品を点検・整備・補充した。
- ・職員会議を月2回定期的に開催して、利用者情報および施設運営の課題等を確認・検討した。また業務日誌、ケース記録、施設内LANを活用して利用者等の情報を速やかな共有化に努めた。

4 保 健 衛 生 ・ 環 境 整 備

- ・バックアップセンターの保健栄養相談を積極的に利用し、86世帯に面談してもらい、健康管理・食生活・育児等について啓発等を行い、また毎月「けんこう通信」を掲示した。
- ・特別区人事・厚生事務組合による、全居室給湯器改修工事によりその性能・機能が向上した。
- ・全館の防虫消毒（年2回）、施設周辺の植栽剪定（1回）、排水管清掃（1回）それぞれ実施した。
- ・居室整備として、畳替え（8居室）、臨時清掃（3居室）等を実施した。

5 施 設 の 社 会 化 （地域交流事業及び施設機能強化推進事業）

- ・地域住民からの要望もあり、施設入口にAED保管ボックスを設置し、住民が緊急時に利用ができるようにした。
- ・地元町会等を通して地域の情報を収集するとともに、地域の広報誌を所内に掲示し、利用者・職員が地元行事（お祭り、花火等）に参加し交流を深めた。
- ・施設所在区DV関係機関連絡会・施設所在区保護児童対策地域協議会のメンバーとして参加し、関係機関に当施設の概況を理解してもらうとともに、他の機関の状況を把握できた。

6 福祉サービス第三者評価 評価結果

評価機関：特定非営利活動法人NPOサービス評価機構

実施期間：H29. 8. 16-10. 3

の講評：

特に良いと思う点

- ① さまざまな課題を持った利用者との関わりを、高度な理念とスキルによって深めている。
- ② 年数回行われる季節の行事を通じて、利用者の楽しみや安らぎを大切にしている。
- ③ 独自の心理相談をまじえて利用者の心を支え、自立への以遠に行かしている。

さらなる改善が望まれる点

- ① 小中学校の通学や学習に必要な機材、日常的な学習支援体制の整備を期待する。
- ② ヒヤリハット個々の事例について、すぐに確認、活用できるよう、見える化しておくことを期待する。
- ③ 少人数の職員体制の中、今後も引き続き、職員の能力開発に向けてより一層の取り組みを期待する。

施設コメント：

調査母数（27名）は多くないが、利用者の総合的な感想として、「満足」18名、「やや満足」6名で、あわせるとその割合は92%となり高い評価を受けた。また、「安全に生活することができるようになった」との自由コメントもあって、職員にとって更なる支援向上への励みになる。

他方、改善を指摘された点、②については、見える化のための「ヒヤリハット集」作成を指摘直後から速やかにはじめている。①③については、今後、優先的に機会をとらえて取り組んでいきたい。